

理学部

教育研究上の目的

本学部は、学術の基礎と一般常識を身に付け、理学における専門的な知識を修得する道を通じて個を確立し、社会の中核として活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、理学部では科学的思考能力を身に付け、社会で活躍できる人材の育成を最終的な目標としています。

エネルギー問題や環境問題等の人類の将来を左右する多くの大問題を抱えた21世紀の知識情報社会の中で、理学部の果たす役割は、基礎研究の促進と科学的思考能力を身につけた人材を社会に送り出すことです。科学的思考能力とは、教養に裏づけられた柔軟な科学的思考能力であり、単なる専門知識の寄せ集めではありません。この能力は今の不安定な社会を生き抜く能力でもあり、常に自ら学んで成長できる能力でもあります。また、現今のグローバルな時代では、このような科学的思考能力に加えて、自ら発信する能力と他者の意見に十分耳を傾ける能力が求められています。

本学部では、全教員が協力して系統的かつ効率的な4年間の教育課程を通じて、社会の発展に貢献し、社会の問題を解決するのに必要な能力を身につけさせることを教育目標と定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学部の教育課程において、卒業要件単位を取得した者は、次に掲げる知識、教養、能力を身につけていると判断し、学士(理学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 理学の基礎に関わる幅広い素養を身につけている。
 - (2) 科学の応用に関する倫理観を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 伝統と社会および文化に対する深い理解力を身につけている。
 - (2) 言語以外の表現を活用したコミュニケーション能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 理学部各学科の学問領域の最前線の理解を持続的に可能とする基礎となる専門的知識を身につけている。
 - (2) 知識情報社会に対応できる能力と、卒業後も成長して、職業人として社会に貢献できる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学部では、社会の中核として活躍する人材を育成するため、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 入学後の第1 Semesterでは、全学共通の「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」を通じて大学生の心構えと大学での学び方、ならびに社会性を身につけます。
 - (2) 2、3年次で基礎的専門科目を学び、3年次の後期からは各研究室に配属されてゼミで学びます。
2. 教育の方法と評価
 - (1) 基礎教育や語学では授業内の小テストを行い、専門教育ではレポートや試験で評価します。
 - (2) 全ての学科に実習と演習が組み込まれており、レポートや発表で評価します。

- (3) 4年次では研究室にて理学の特定課題について卒業研究を行い、論文や発表で評価します。
- (4) 単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学教育によって養う能力

- (1) 本学部は、学術の基礎と一般常識を身に付け、理学における専門的な知識を修得する道を通じて個を確立し、社会の中核として活躍できる能力を持ち、学び続ける意欲のある人材を育成します。

2. 本学部の求める入学者

- (1) 高等学校卒業程度の理科、数学、英語等の基礎学力を有する人
- (2) 大学で積極的に学ぶ意欲をもった人
- (3) 大学での学びを将来に生かそうとする明確な目的意識をもった人

3. 高校までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 一般入試、給費生試験、大学入学共通テスト利用入試では、理学部での学修に必要な基礎学力を、高等学校での学習の達成度をもとに判断します。
- (2) 学科により総合型選抜として AO 入試、全学科と総合理学プログラムで、学校推薦型選抜として指定校制推薦入試、総合型選抜として公募制自己推薦入試があります。指定校制推薦入試では、勉学意欲に富み、指定校の学校長から推薦された人に対し、面接により選考を行います。AO 入試と公募制自己推薦入試では、理学部の各学科の専門分野と科学一般について、実験や観察のレポートまたは小論文および面接により選考を行います。